

第4回 第二次鎌倉市子ども読書活動推進計画策定委員会 会議録

日時：平成24年7月12日(木) 15:00～16:30

場所：中央図書館 多目的室

<議題>

共通認識について

(事務局) 子ども読書活動推進計画というのは、子ども達の読書離れを心配して国が法律を作り、それに基づいて、地方公共団体でも子ども達のために大人ができることは何だろうといことで、作られているもの。

0歳～18歳までを対象としているので、こちらにも関係する課や施設の方々に参加していただいている。今、小さい子ども達もやがて小学生になり、中学生、高校生になりと、それぞれ読書への関わりは違ってくるが、ここで作られた計画にそれぞれの年齢ごとに関わってくることになる。なので、大きな視点から皆さんにご協力いただければと考えている。

今は情報が溢れ、様々な情報の中から正しいものをつかみ取っていく力を身につけるために、また、学ぶ力の基礎を身につけていくために、子ども達が生きていく上での一つの力になるものとして読書が大切になってきている。それをサポートできる環境を作っていくために、私たち大人がこの計画を作っていくという共通認識をもって、あとしばらく策定委員会の皆さんと取り組んでいきたい。

(A委員) 6月の議会でも前川議員が図書館や学校図書館について、質問をし、教育長が答弁をしていたが、この子ども読書活動推進計画と図書館サービス計画の見直しのことも取り上げていた。実現が難しいと思われるものを計画に載せられないというのも分かるが、教育長の前向きな答弁を意識しながら、鎌倉市としてどんな計画にしていくのか、考えていきたいと思う。

(委員長) 皆、共通認識については、同様の意見だと思う。

(1) 第二次子ども読書活動推進計画の策定について

(事務局からの説明のあと、質疑応答。要点筆記)

① キャッチフレーズについて

(事務局) 素案の第3章27pを見てほしい。キャッチフレーズについて、先回の会議で事務局案「本はともだち～本と人との輪づくり」を出した。このキャッチフレーズについてだが、まだ、他にあるようなら出していただき、この委員会で検討できればと考えている。

事務局案は、読書は一人ひとりの個人的な営みではあるが、鎌倉市の子ども読書活動推進計画では、そこから、家族、友達へと広げていき、子どもや子ど

もの本に関わる人達のコミュニケーションにもつなげていければという思いで作った。

(B委員) 事務局案でいいと思う。

(事務局) 補足だが、案では 27 ページにキャッチフレーズを載せていて、その後、基本方針に展開しているが、基本方針についても何かあれば。

(C委員) 子どもにも分かりやすくいいと思うが、この 3 つの基本方針をもとにキャッチフレーズができたのか、詳しく経緯を説明してほしい。

(事務局) まずキャッチフレーズを作って、そこから、基本方針をたてた。「家読(うちどく)」といって、県が第二次推進計画で家庭内での読書を推進している。家庭内で、読んだ本の感想を言い合うなどして、読書の喜びを広げてほしいということ。学校でも子ども同士でブックトークをする単元があると聞かし、朝読などのボランティアで保護者同士の交流も盛んになっている。読書は個人的な営みで強制や干渉はしないが、この 3 つの柱を通して発展させたいという思いで作った。

(A委員) 基本方針のこの 3 つだけで、この計画の全体を表せているだろうか。この計画の中では、学校図書館の取組みも大きく書かれている。公共図書館と学校図書館のことを盛り込んでいるので、基本方針でもそのことを表せられるといい。

(事務局) 子どもを取り巻く環境としては、家庭、子どもと関わりのある施設(幼稚園・保育園・学校・子どもの家等)と図書館(行政)があり、さきほど共通認識で確認したように、皆で連携して子どもの読書環境を作っていくてはならない。この 3 つの基本方針は、第二次計画のキャッチフレーズに基づき、それにプラスという意味で出したもので、この 3 つで全体を表すとは考えていない。不足だという指摘をいただいたので、検討していきたい。

(D委員) キャッチフレーズが計画の中ほどに書かれているが、もっと冒頭にあっていいのではないかと思う。

(事務局) これはたたき台なので、そのような意見をいただきながら、まとめあげたいと思っている。参考にしたい。

② 全体構成について

(事務局) 素案たたき台の目次ページを開いてほしい。

第 1 章 第二次計画の策定に向けて

第 2 章 第一次計画における取組み・成果と課題

第 3 章 第二次計画の基本的な考え方

第 4 章 第二次計画での取組み

という構成になっている。これは県内自治体の第二次計画、たとえば神奈川県や相模原市の計画等を参考にしている。この構成についてご意見をいただければ

ば。もう1章ぐらいつけ加えたほうがいいのか、最後に用語解説や子ども読書関連法令等を加えたほうがいいのか。第一次計画では最後につけている。

(A委員) キャッチフレーズが中ほどにきているが、第二次の計画なので、もっと第二次のことを前に出したほうがいいのか。第一次計画の成果と課題についてボリュームが多過ぎる。第二次の計画としては、物足りない。表も2つに分かれているが、一体化できないか。削除や追加の項目があるので、このような展開になっていると思うが、文章では説明しているので、表は一目でわかるような形で一体となっていた方がよい。

(E委員) 家庭や地域、学校ごとに、役割や取組みについての記載はあるが、子どもを主体とした計画なので、子どもの成長段階に合わせて必要なものがあり、その上での役割分担のはずなので、幼児期に必要な取組み、その上で家庭・地域ではこのような役割というふうに、子どもの年齢ごとに関する記載を考えてほしい。

(事務局) 3章と4章を2章よりも前に持ってくることはできる。第一次の成果と課題については、難しいかもしれないが、第二次計画については、子どもの成長段階に合わせた記述を盛り込むことは可能だと思う。第一次計画では、年齢ごとに構成し、その中で家庭・地域、学校、図書館・行政と役割を検討していったが、第二次計画では第一次計画を踏まえて、この3つの観点から計画の成果を見直しているため、このような形になっている。新たな組み直しは難しいが、子どもの年齢にふれた記述をいれることはできる。

(A委員) 第一次計画では「策定にあたって」として市長名での言葉があり、その後計画策定の主旨にページがさかれている。第二次計画では、「第二次計画の策定に向けて」と簡略化されたものはあるが、やはり第二次計画でも発達段階に合わせた鎌倉市の子ども読書活動に対するビジョンを示したい。

(事務局) 年代や環境に合わせた取組み方針のわかるものを1章加えた方がよいということか。

(A委員) 取組みの方針がわかるものがあつた方がよい。

(委員長) 部数は何部くらい印刷するのか。

(事務局) パブリックコメントを取るときには、各部署に置いてもらって配布し、幼稚園、保育園、学校等の各施設にも全て送った。パブコメは広報に載せ、〇/〇～〇/〇に配布、〇/〇までに意見をとって、素案を各窓口で配布。意見をもらうのに、一人一冊ないといけないので、各施設に5部くらいずつパブコメを取るときは送付した。その後できあつた計画は各施設に1部ずつ送付した。

(事務局) 章立てについて、A委員から順番の変更について意見があつたが、他の方の意見はどうか。

(D委員) やはりキャッチフレーズのある第二次計画の基本的な考え方の章は、もっと前にきたほうがよいと思う。

(F 委員) 取組み事業一覧についてだが、第一次計画と第二次計画で表を見比べるのが大変なので、表を統一し、スッキリさせてはどうか。できるだけわかりやすいものにしたいとのことだったが、ボリュームが多く、読むのが大変な印象があり、それだけで敬遠されるところもあるのでは。

(A 委員) 必ずしも、第一次計画と第二次計画の章立てを入れ替えなくてもいい。表が2つなのが、わかりにくいので、表を統一させ、第一次計画と第二次計画の表を一体化すれば、いい。

(事務局) 第一次計画の検証の中で、第一次計画と第二次計画の表を照らし合わせ、削除や追加が一目でわかればいいか。評価のもと、継続になったもの、削除になったものなどが一目でわかるといいということか。

確認だが、第一次計画の検証の中で表を抜いて、文章だけ残ればボリュームも少なくなるので、第二次計画より、第一次計画の検証が先に来てもよいか。表は、片側が第一次計画の表、もう片側が第二次計画の表とし、一目でわかるものとし、第5章として、一覧表を増やすということでもいいか。事務局で整理してみる。

(委員長) 用語解説や法令等については、どうか。

(F 委員) 法令等については、インターネットで見ることができし、厚みがあるので分けてしまうので、図書館HPにリンクをはればいい。興味のある人は自分で調べるだろうし、税金で印刷するのだから、余分な印刷は控えたい。

(E 委員) 第一次計画では、用語解説が丁寧だが、もっと短くし、詳しく説明しなければならぬものについては、リンクを貼るなどして対応していけばいいのでは。

(A 委員) 用語解説は解釈が色々なものもあるので、載せたほうがいい。法令については、文科省のホームページをひけば全て出てくるが、全てを自分で調べるのは大変なので、抜粋でも最低限のところは、載せるべきではないか。そのほうが、皆が理解できるものとなる。

(G 委員) やはり1冊でわかる方がよい。どこかを調べないといけないようでは大変。

(D 委員) 全ての人インターネット環境が整っているわけではないので、ある程度は載せたほうがよい。

(H 委員) 簡略化して、載せたほうがいい。

(I 委員) 第一次計画に載っているものが必ずしも全部必要かどうかはわからないので、新たな説明が必要なものについては載せ、見直していく中で不要なものは省き、厚くなり過ぎないようにしてはどうか。

(委員長) 量が増すのは避けたい。新たに追加する言葉は、説明が必要か。学習パック、子ども読書パック、データ化など。事務局で精査して進めてほしい。

③ 計画全体について

(事務局) さきほどの話で章建てについて変更があると思うが、主に第3章と第4章について、意見をいただきたい。27 ページ第3章を見てほしい。基本方針については、事務局でもう少し見直していくが、推進体制については、前回の策定委員会でも確認したが、第一次計画と同様に、かまくら読書活動支援センターとこの策定委員会の前身となっている子ども読書活動推進連絡会の2つを中心に進めていきたい。

第4章についてだが、まず36 ページの取組み事業一覧を見てほしい。ほとんどが継続実施中だが、新規のものに星印をつけてあり、来年度から、実施に向けて取り組んでいこうというもの。前回の策定委員会で頂戴した意見を基に変更した点は、2 学校の6 番「市内の全市立中学校に学校図書館専門員を配置」とし、実施年度は空欄としている。司書教諭については、第二次計画には載せていない。データ化については、8 番に「調べ物や蔵書管理を効率的に行うため、蔵書をデータ化」として、今年度より継続検討中とした。

また、3 の図書館・行政の項目では、病院と多文化サービスについての項目を29 番の「読書についてのなんでも相談窓口の開設」へ統合し、「入院中の子ども達や日本語以外の言語を母語とする子ども達、図書館を利用しにくい子ども達などの読書についての相談窓口」とカッコがきで併記した。

29 ページからの文章の部分は、この取組み事業一覧をもとに、文章で説明し、強調したい部分に網掛けをした。

(A 委員) 推進体制について、子ども読書活動推進連絡会について、市民委員は入っていないようだが、幅広い意見を入れるため、市民委員を入れたほうが良いのではないか。

(事務局) 推進連絡会は内部評価であり、計画の進行管理を評価する組織なので、外部評価として必要があれば検討するが、現在のところ、市民委員を入れる必要はないと考えている。

(A 委員) 時代の要請はすでにあると思う。今後市民委員を入れることを検討してほしい。過去の推進連絡会の議事録も公開してほしい。

(事務局) ご意見として、参考にする。

(H 委員) ブックスタート事業について、6 か月児育児教室で絵本をプレゼントしていて保護者にととても喜ばれている。ボランティアとして関わっているが、絵本をきっかけに図書館へ来館する方も多い。予算が厳しいと聞くが、今後もぜひ続けてほしい。

(事務局) 予算は厳しいが、継続して続けていきたいと思っている。計画の中にもそのような表現で盛り込んでいきたい。

(A 委員) 来年度はブックスタートの予算がつかないと聞いている。中心は図書館というのはいいが、ここにも関係課が載っているのだから、連携して乗り切してほしい。学校図書館への学習パックなど図書の搬送も、図書館が館長自ら行

ったり頑張っているが、教育指導課でも取り組んでほしい。連携というのは、一方的な支援ではない。計画では学校図書館のことも盛り込まれているが、図書館の支援体制はわかるが、学校図書館の姿勢が希薄。小学校には学校図書館専門員が全校に配置されたといっても週3日。すぐには無理だと思うが、毎日専門員がいることを目標にしていきたい。蔵書構成を充実させたり、手渡す人を配置するというのは基本。学校図書館はもっと学習センター機能をもった、教育、勉強に役立つ場所として機能していかないといけない。学校側の意見をもっと計画に載せてほしい。幼稚園・保育園での取り組みもわからないので、載せてほしい。

(事務局) ブックスタート事業については、継続して行うよう努力していく。学校図書館との連携については、学校図書館専門員等の研修のほか、学校に通っている子どもの見学の受入なども継続して行っていく。この計画は図書館が作成しているので、図書館からの提案となっているが、推進連絡会の場で、保育園・幼稚園、学校等からも図書館と連携した提案を逆にもらっている。

(I委員) 学校図書館の充実に対する意識は持っているが、子ども達の読みたい本がそろっていないというのが現実で、限られた予算で、学校ができるどころ、図書館と連携して行っていくところ等、工夫をしていきたい。ただし、学校だけで読書活動が広がるのではなく、やはり家庭での読書習慣も大切。幼稚園・保育園から学校へとスムーズに流れていかなければならない。今後も模索しながら、進めていきたい。

(委員長) 取組み事業一覧の担当課のところはどうか。

(A委員) 読書環境がしにくい子どもへの部分は障害者福祉課などの市役所の窓口も入れてはどうか。読書についてのなんでも相談窓口の開設とあるが、窓口を設けてもそこまで行かれない人、存在を知らない人へのサービスはどうするのか。

(委員長) 前回の委員会でのやり取りが気になり、湘南鎌倉総合病院に確認したが、病院は独自に動いているので大丈夫とのこと。なんでも相談窓口については、それぞれの施設や病院へはPRが必要になる。市民健康課なども担当課に入れたほうがよいか。項目をたくさんあげればよいというものではなく、実践につなげなくてはならない。余計なお世話になってしまってもいけない。

(F委員) 全体をとおしてパンフレットにかかる予算はいくらくらいか。なるべく少なく抑えて、その分少しでも本を購入する予算にあててほしい。

(事務局) パンプの予算は、色上質を買うくらいのもので、役所の内部で印刷をするので、特に計上していない。

(F委員) 23番にパンフレットの作成とあったので、どのくらい予算がかかるのかと思った。

(委員長) このパンフレットができたときには、園長会などの会議に来て、PRしてもらえるものと期待している。せっかく作成するので、幅広く周知して

アピールしてもらえれば。

(事務局) 行政はPRが下手と言われているが、色々なメディアを使っていくことはこれからの図書館の使命。情報の発信も図書館として求められている。どこへでも出向いてPRしていくつもり。

(委員長) 市民委員の方にしてみれば、行政の懐具合も心配になる。

(事務局) ないない尽くしの中で、どのように予算を獲得できるか模索しているところ。ホームページにバナー広告を載せたり、スポンサーを見つけて雑誌を購入してもらっている例もある。鎌倉市も努力していきたい。

(F委員) 16ページに「予算の関係で外部講師を招いての企画はできなかった」とあるが、いずれ高校生の親となる者としては、残念。代替りの企画もすごく良い企画だと評価しているが、やはりそれとは別に外部講師を招いた企画もスポンサーをつける等して、工夫してやってほしかった。

(A委員) 文科省で第三次子ども読書活動推進計画を今年度まとめると聞いているが、文科省で出されたものも参考にしてほしい。学校図書館への人の配置などは交付税措置がなされるなどしている。鎌倉市は不交付団体だが、国の状況とあまり乖離した環境にならないようにしてほしい。

(事務局) 国や県の計画は全体的なもの。今後参考にするよう検討する。

<その他>

●次回の策定委員会は8月21日(火) 15時～17時。中央図書館多目的室にて。